

平成24年漁期イカナゴシニコ(新子)漁況予報

平成24年2月14日
兵庫県立農林水産技術総合センター
水産技術センター

1. 親魚の調査結果

(1) 親魚密度(表1)

鹿の瀬水域における文鎮漕ぎ1回当たりの採集尾数は212.9尾で昨年を下回ったが、平年並みであった。年齢組成は1才魚が66.3%、2才魚以上が33.7%で、昨年に比べると2才魚以上の割合が増加した。

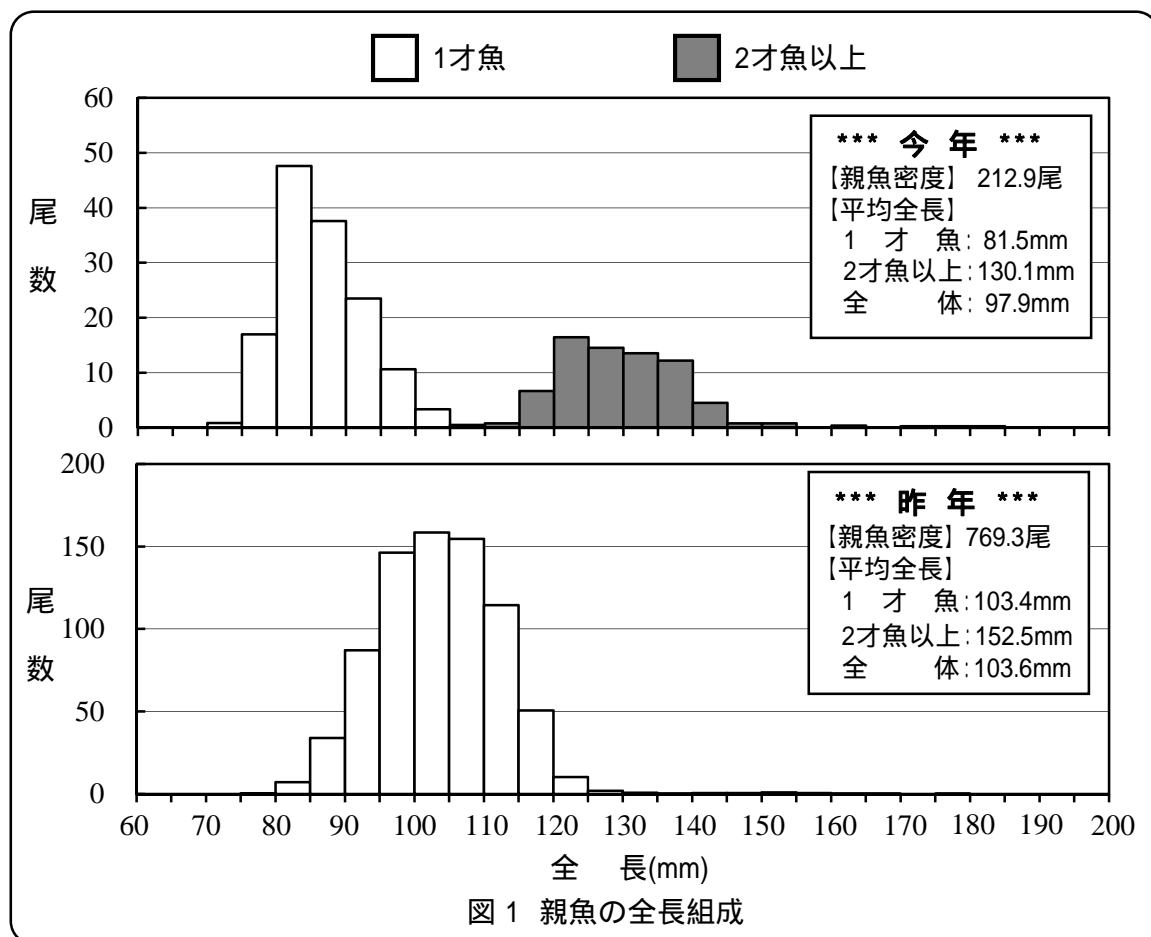
表1 親魚密度(文鎮漕ぎ1回当たりの採集尾数)

年	1才魚	2才魚以上	全体
今年	141.1尾 (66.3%)	71.8尾 (33.7%)	212.9尾
昨年	765.9尾 (99.6%)	3.4尾 (0.4%)	769.3尾
平年	-	-	205.1尾

*平年値は昭和61年～平成22年の平均値

(2) 親魚の全長組成(図1)

親魚全体の平均全長は97.9mmで昨年の103.6mmを下回った。年齢別にみると、1才魚の平均全長は81.5mmで昨年の103.4mmを下回り、2才魚以上の平均全長も130.1mmで昨年の152.5mmを下回った。



(3) 産卵量指数(表2)

産卵量指数が2.74になったことから、鹿の瀬水域における今期の総産卵量は昨年の0.3倍、平年の0.7倍と推定された。

*産卵量指数；総産卵量の目安となる数値。1尾当たりの産卵量は親魚の大きさによって異なるため、毎年の親魚密度と全長組成から算出。

表2 産卵量指数(昭和61年を"1.00"とした場合)

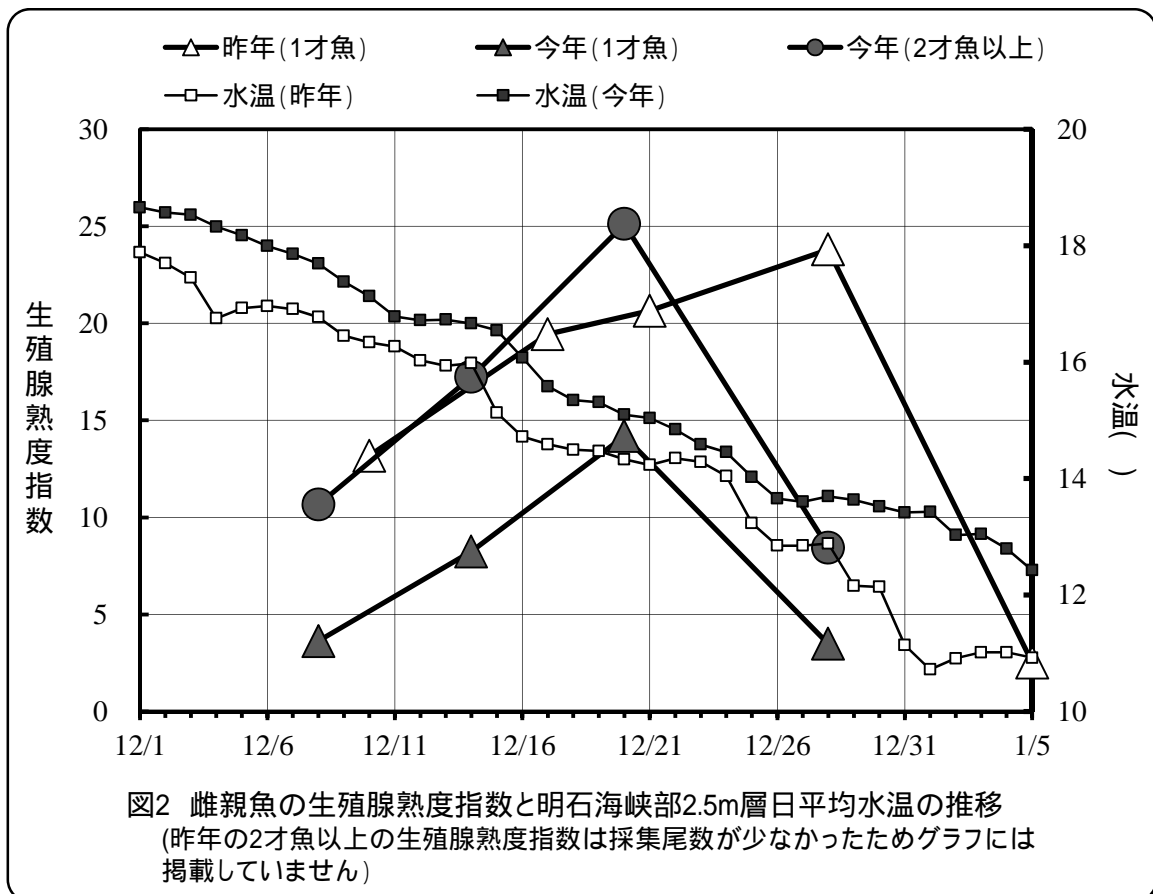
年	1才魚	2才魚以上	全体
今年	0.66	2.08	2.74
昨年	9.10	0.18	9.28
平年	-	-	3.96

*平年値は昭和61年～平成22年の平均値

(4) 産卵盛期(図2)

下記の点から、今期の鹿の瀬水域における産卵盛期は昨年(12月30日～1月1日前後)よりやや早い12月26～28日前後と推察された。

- ・雌親魚の生殖腺(卵巣)熟度指数が12月20日から28日にかけて減少した。
- ・水温が12月21日から26日にかけて1.4℃降下し、産卵が促進された。
- ・12月28日の時点で70%以上の雌親魚が産卵を終えていた。



2. 稚仔の調査結果

播磨灘、大阪湾、紀伊水道、各海域の1地点当たりの平均採集尾数を表3に、各地点の採集尾数を図3に示した。

表3 各海域の1地点当たりの平均採集尾数

海 域	今 年	昨 年	平 年
播 磨 灘	20.1尾	158.9尾	67.0尾
大 阪 湾	110.5尾	733.7尾	74.0尾
紀伊水道	3.8尾	44.2尾	11.7尾

*播磨灘・大阪湾の平年値は昭和61年～平成22年の平均値、紀伊水道の平年値は平成5年～22年の平均値

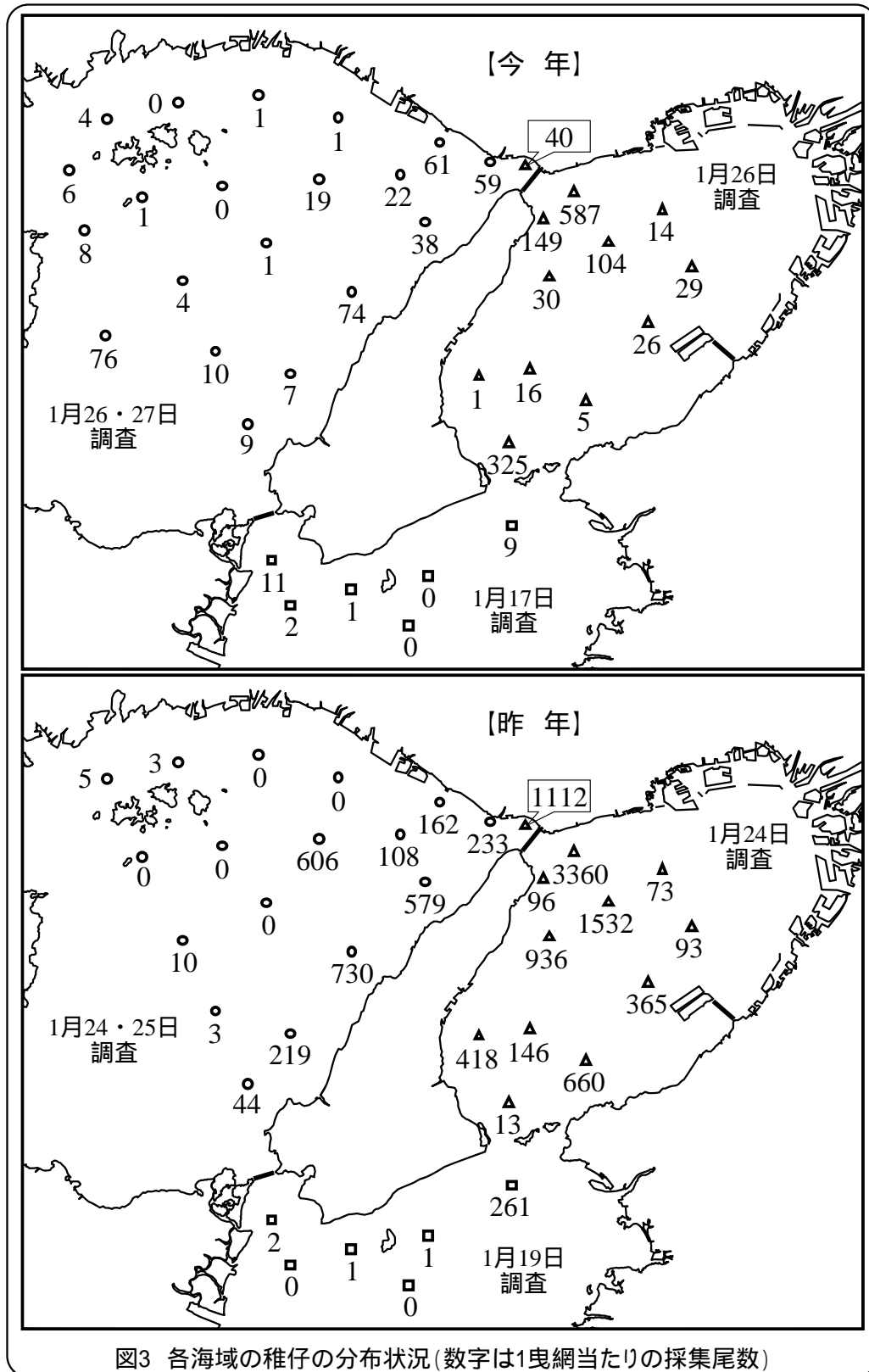
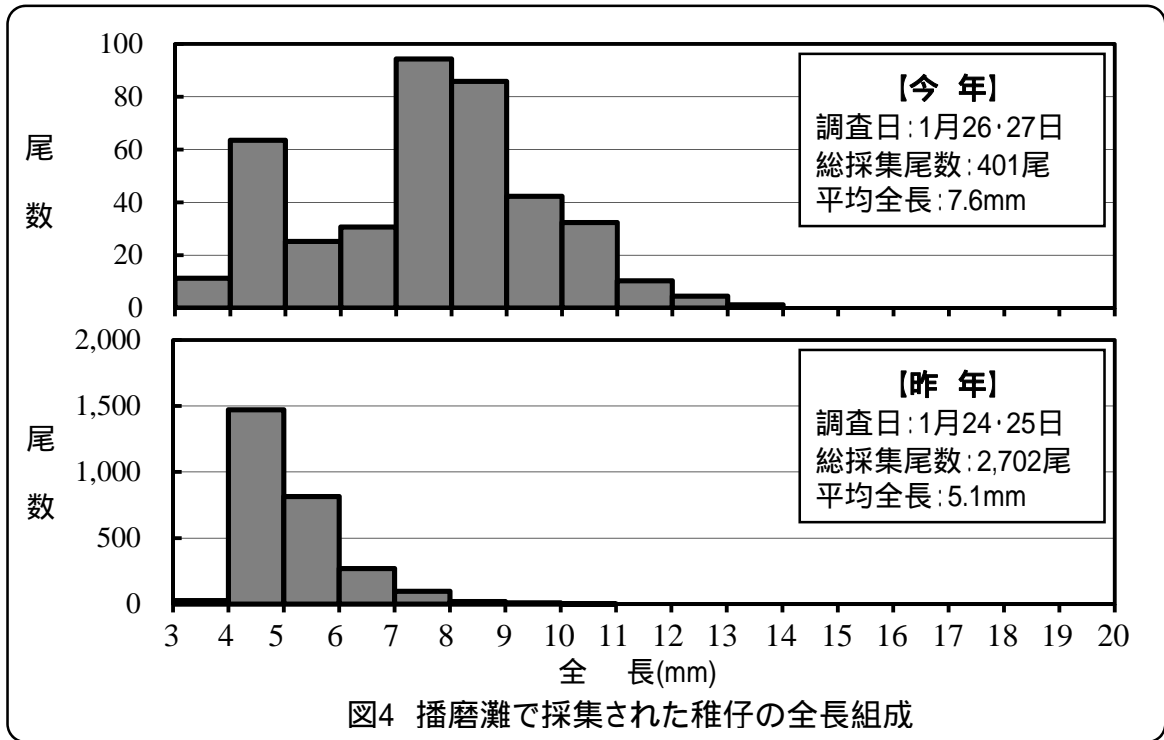


図3 各海域の稚仔の分布状況(数字は1曳網当たりの採集尾数)

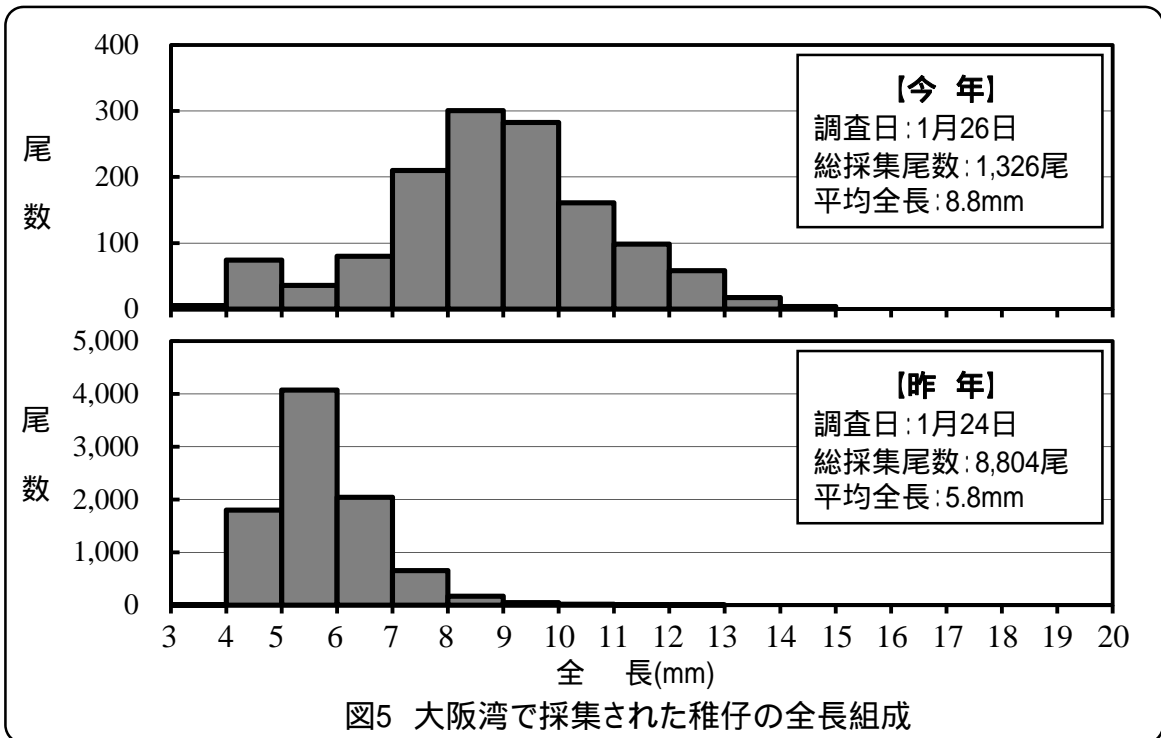
(1) 播磨灘

播磨灘の調査は1月26・27日に20地点で実施した。1地点当たりの平均採集尾数は20.1尾で、昨年、平年を下回った。採集された稚仔の平均全長は7.6mmで、昨年の5.1mmを上回った(図4)。



(2) 大阪湾

大阪湾の調査は1月26日に12地点で実施した。1地点当たりの平均採集尾数は110.5尾で、昨年を下回ったが、平年を上回った。採集された稚仔の平均全長は8.8mmで、昨年の5.8mmを上回った(図5)。



(3) 紀伊水道

紀伊水道の調査は1月17日に6地点で実施した。1地点当たりの平均採集尾数は3.8尾で、昨年、平年を下回った。採集された稚仔の平均全長は6.7mmで、昨年の5.6mmを上回った(図6)。

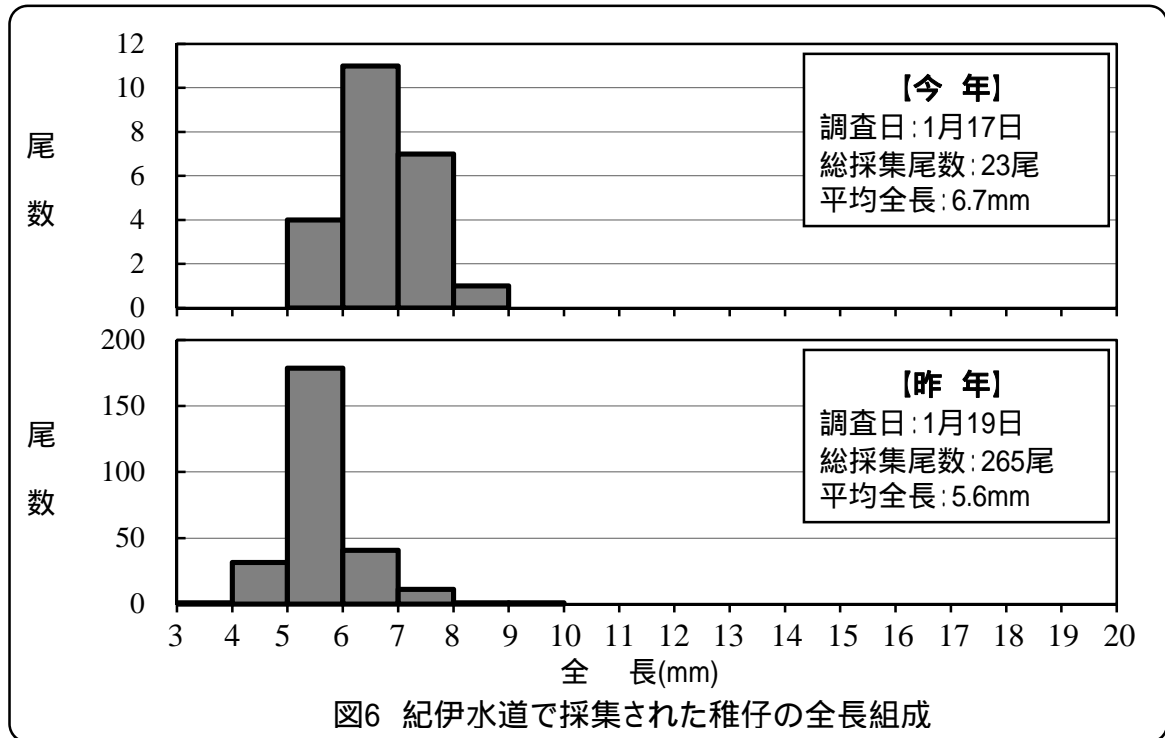


図6 紀伊水道で採集された稚仔の全長組成

3. 稚仔の成育の見通し

稚仔の成長速度は主に水温の影響を強く受け、水温が高いほど成長速度は速くなると考えられる。今年の明石海峡部の水温は1月1日から2月2日までは昨年、平年より高めで推移し、2月3日以降は平年並みで推移している(図7)。

2月10日に大阪管区气象台から発表された1ヶ月予報(気温は平年並みまたは平年より低めに推移する確率が最も高く、ともに40%)から判断すれば、今後の水温は平年並みから平年よりやや低めで推移すると予測されることから、稚仔も昨年よりは早く、平年並みもしくは平年より若干遅い速度で成長すると考えられる。

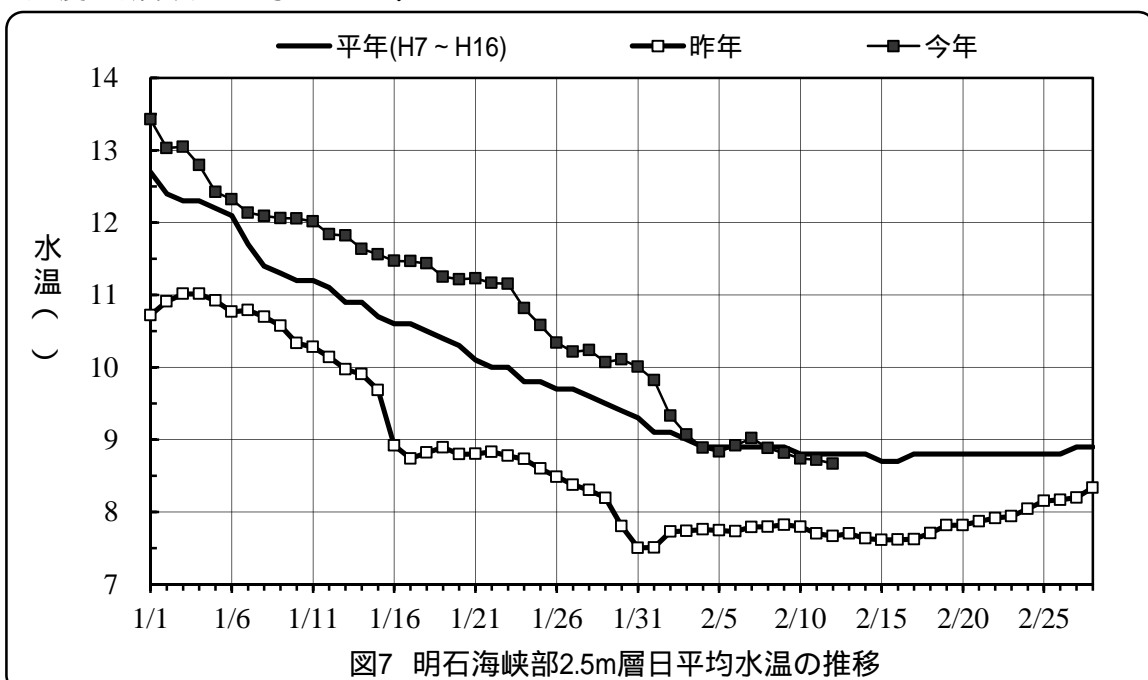


図7 明石海峡部2.5m層日平均水温の推移

4. シンコ漁の予測

昨年は産卵量、稚仔の分布量とも平年を大幅に上回ったが、水温が平年より低めで推移したため、稚仔の成長はかなり悪かった。今期は、産卵量が平年の 0.7 倍、稚仔の分布量は大阪湾では平年をやや上回ったものの、播磨灘と紀伊水道では平年を下回った。しかし、稚仔の平均全長は各海域とも昨年を上回り、水温や餌料などの環境面は昨年より良好であると判断されることから、今期のシンコ漁獲量は各海域とも昨年は下回るものの、大阪湾では平年並み、播磨灘、紀伊水道では平年をやや下回る程度と推察される。

注) シンコの網おろし日は各地区漁業者の自主的判断によるが、過去の経験から網下ろしが早過ぎた場合には不漁になる可能性が高い。網おろし日の決定にあたってはこの点を十分に考慮されたい。